

日本媒介の『共産党宣言』漢訳と訳語の変遷

——「平民」から「無産者」への移り変わりを中心に——

劉 孟 洋

Translation of *Manifesto of the Communist Party* into Chinese in Japanese Media and Evolution of Its Terms in Translation

— The transformation from “Heimin” to “Musansya” —

LIU Mengyang

In the early Chinese translation of *Manifesto of the Communist Party*, a large number of terms were introduced from Japanese. In the translation, terms have been in the process of evolution in both Chinese version and its English counterpart. Take the term “proletarian” as an example, both versions involve the change from “Heimin” to “Musansya”, in which “Heimin” originated from ancient Chinese with the meaning of “ordinary people, people”. In recent times, however, the term was endowed with a new meaning in Japanese, which was transferred into Chinese and took the place of its early counterpart “Heimin”. Hence, the influence of the Japanese translation of “proletarian” on Chinese versions of *Manifesto of the Communist Party* is worth exploring.

キーワード：『共産党宣言』翻訳 日中語彙交流 訳語の変遷 平民 無産者

はじめに

近代中国の『共産党宣言』の伝播プロセスにおいて、日本の役割は非常に大きいものであり、20世紀初頭から1919年五四運動前後に至るまで、中国は日本語出版物を主な媒介物として『共産党宣言』を翻訳してきたと同時に、数々の訳語を導入してきている。歴代の『共産党宣言』日本語及び中国語訳本における訳語の変遷は非常に著しく、「Proletarian」の対訳語が代表的な例であり、日本語訳本と中国語訳本では共に「平民」から「無産者」への移り変わりがみられたことから、中国語訳本における訳語の変遷には日本語による影響の可能性が高いものであると推測できる。本研究では、近代日中語彙交流史の角度から歴代の『共産党宣言』日本語且つ中国語訳本における「Proletarian」の諸対訳語「平民」及び「無産者」を考察対象とし、日本を媒介とする「Proletarian」の中国語訳語の変遷プロセスについて考察を行う。

一、近代日中両国における『共産党宣言』の翻訳

1 近代日本における『共産党宣言』の翻訳

日本におけるマルクス主義の伝播は19世紀80年代初頭を発端としており、小崎弘道著「近世社会党ノ原因ヲ論ズ」(1881)、ウールセイ (Woolsey Theodore Dwig) 著、宍戸義知識「古今社会党沿革説」(1882)、中江兆民著「近代社会党之沿革」、「社会主義と共産主義」(1882)等の文献を以て、マルクス主義に関する啓蒙的な知識が紹介され始めた¹⁾。

19世紀90年代初頭から20世紀初頭にかけて、『共産党宣言』、『資本論』をはじめとするマルクスの著作物を対象とした研究が行われ始め、深井英五著『現時の社会主義』(1893)、田島錦治著『日本現時の社会問題』(1897)、福井準造著『近世社会主義』(1899)、幸徳秋水著『社会主義神髓』(1903)等の著書により『共産党宣言』における主な内容が紹介され、一部の段落が翻訳されている。1906年には『共産党宣言』日本語訳初版本が堺利彦、幸徳秋水との共同翻訳により誕生した。厳密に言えば、堺利彦・幸徳秋水共訳本は1904年11月13日発行の『平民新聞』第53号において既に掲載されているが、同訳本では『共産党宣言』第3章の訳文が欠けているため、1906年3月創刊の『社会主義研究』第1号にて掲載された訳本こそ正式な日本語訳初版本である。尚、1906年版の訳本は堺利彦独自によって訳されたものであるが、基本的には1904年版訳本を基に第3章の内容の訳文を追加したものであるため、「堺利彦・幸徳秋水共訳」と記されている。

日本における『共産党宣言』の翻訳は1910年以降、政府による社会主義関連出版物への取締により一時的低迷に陥ったが、1917年以降はロシアの十月革命勝利の影響により、再び盛んに行われるようになり、『共産党宣言』における部分的内容が河上肇、櫛田民蔵らにより翻訳引用の形で発表された。河上肇は1919年創刊の個人雑誌『社会問題研究』第1-3冊にて掲載の「マルクスの社会主義の理論的体系」において『共産党宣言』翻訳を部分的に発表しており、櫛田民蔵に関しては、『経済学研究』第1巻第1号にて掲載の「社会主義及び共産主義文書」(1919)において、『共産党宣言』第三章における部分的内容の訳文を発表している²⁾。日本語全訳本に関しては、同時期から1945年終戦に至るまで、内務省警保局訳本(1919、1925)、堺利彦改訳本(1921)、早川二郎・大田黒年男共訳本(1930)、長谷川早太訳本(1930)、志保田博彦(塩田莊兵衛)訳本(1945)、社会科学研究会訳本(1946)等の訳本が公刊されている。しかし、内務省警保局の2訳本及び堺利彦改訳本に関しては、公刊当時の日本では依然と思想、言論弾圧の状況であるため、地下・秘密出版の形での公刊に留まっている³⁾。

1) 宮島達夫「『共産党宣言』の訳語」『言語の研究』(むぎ書房、1979年)425-516頁、胡為雄「馬克思主義伝入日本再転伝中国過程中的日本学者」(『中共中央党校学报』第4期、2014年)103-106頁。

2) 玉岡敦「日本語版『共産党宣言』における翻訳術語の変遷」『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究(53)』(八朔社、2012年)11-23頁。

3) 堺利彦改訳本(1921)は堺利彦が『社会主義研究』にて掲載の幸徳秋水との共訳本(1906)を基に、ドイツ語版原本を依拠した上で口語文に改めた訳本であり、堺利彦独自によって翻訳されたものであるが、訳者に関しては「幸徳秋水・堺利彦共訳」と記されている。玉岡敦「『共産党宣言』邦訳史における幸徳秋水・堺利彦(1904、1906)の位置(特集 大原社会問題研究所所蔵 幸徳秋水・堺利彦訳『共産党宣言』の意義)」(『大原社会問題研究所雑誌

2 近代中国における『共産党宣言』の翻訳

中国で初めてマルクス主義について紹介されたのは19世紀90年代末頃であり、1898年、上海広学会において出版されたティモシー・リチャード（Timothy Richard）著、胡貽谷訳『泰西民法志』はマルクスの名が触れられた最初の中国語出版物であり、マルクスの生い立ちについて紹介されている⁴⁾。翌年公刊の『万国公報』第121巻において掲載されたティモシー・リチャード（Timothy Richard）著、蔡尔康編纂「今世景象」では、『共産党宣言』第1章における一段落が翻訳引用されており、『共産党宣言』について最初に触れられた中国語文献とみられる⁵⁾。

20世紀初頭から1919年五四運動前後に至るまで、中国は日本を媒介に『共産党宣言』、『資本論』等を対象とした研究が行われ、同時期における主なマルクス主義関連の出版物として君武（馬君武）著「社会主義与進化比較」（1903）、趙必振訳『近世社会主義』（1903）、朱執信著「德意志革命家小伝」（1905）、宋教仁訳「万国社会党大会史略」（1906）、葉夏生著「無政府党与革命党之説」（1906）等が挙げられ、『共産党宣言』における主な内容の紹介や一部の段落の翻訳が行われている。1908年には民鳴訳「紳士与平民」が公刊され、当訳文は『共産党宣言』第1章の内容の訳文に値しており、堺利彦・幸徳秋水共訳本（1906）を底本として翻訳されたものである。

五四運動が勃興した1919年以降はロシア語やドイツ語を媒介とした翻訳が徐々に盛んになってきているが、日本語を媒介とした翻訳も依然と行われてきており、同時期の著名思想家李大釗、淵泉らは日本語を媒介に『共産党宣言』の部分訳を行ってきており、『共産党宣言』中国語訳初版本である陳望道訳本（1920）も堺利彦・幸徳秋水共訳本（1906）を底本として翻訳されたものである⁶⁾。陳望道訳本の公刊から1949年中華人民共和国成立前後に至るまで、華崗訳本（1930）、成傲吾・徐氷共訳本（1938）、博古訳本（1942）、陳瘦石訳本（1943）、僑冠華訳本（1947）、100周年記念版訳本（1949）の合計7版本の中国語全訳本が公刊された⁷⁾。

二、日中訳本における「Proletarian」の翻訳

1. 日本語訳本における「Proletarian」の翻訳

歴代の『共産党宣言』日本語訳本における「Proletarian」の対訳語の移り変わりは非常に著しく、河上肇、櫛田民蔵らの部分訳本を含めた歴代の諸訳本では、「Proletarian」の対訳語として以下の語が充て

(603)』、2009年) 14-26頁。

4) 李百玲「從翻譯看馬克思主義在中国的早期傳播」(『上海翻譯』第1期、2009年) 67-69頁。

5) 陳家新「『共産党宣言』在中国的翻譯和版本研究」(『近現代史与文物研究』第8期、2012年) 116-133頁。

6) 石川禎浩著、陶柏康訳「關於陳望道翻譯的『共産党宣言』」(『上海党史与党建』第二期、1995年) 33-35頁、陳力衛・賀婷著、笹野ゆり訳「『共産党宣言』の翻訳の問題－版本の変遷からみた訳語の先鋭化について」(『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究(49)』八朔社、2008年) 9-25頁、賀婷著「陳望道訳『共産党宣言』(1920年)の翻訳底本について」(『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究(49)』八朔社、2008年) 63-65頁。

7) 華崗訳本(1930)と陳瘦石訳本(1943)は英語版訳本を、成傲吾・徐氷訳本(1938)と100周年記念版訳本(1949)はドイツ語版原本を、博古訳本(1942)はロシア語版訳本を底本として翻訳されたものである。また、僑冠華訳本(1945)は英語版訳本を参考に成傲吾・徐氷訳本(1938)を校正したものである。

られている。

表1 日本語訳諸訳本における「Proletarian」の対訳語

訳 本	公刊時期	「Proletarian」の対訳語
堺利彦・幸徳秋水共訳本（第1-2章+第4章）	1904年	平民
堺利彦・幸徳秋水共訳本（全訳本）	1906年	平民
河上肇部分訳本	1919年	無産者
櫛田民蔵部分訳本	1919年	無産者
内務省警保局訳本（1919年版）	1919年	無資産階級
堺利彦訳改訳本	1921年	プロレタリア
内務省警保局訳本（1925年版）	1925年	プロレタリア
早川二郎・大田黒年男共訳本	1930年	プロレタリア
長谷川早太訳本	1930年	無産者、無産者階級
志保田博彦（塩田荘兵衛）訳本	1945年	プロレタリア
社会科学研究会訳本	1946年	プロレタリア

歴代の日本語訳本における「Proletarian」の対訳語はバリエーションに富んでおり、「平民」、「無産者」、「無資産階級」、「プロレタリア」等と様々な訳語が充てられてきている。20世紀初頭に公刊された堺利彦・幸徳秋水共訳の日本語訳初版本（1906）では、「平民」が「Proletarian」の対訳語として使用されていたものの、それ以降の訳本において「平民」が訳語として充たされたケースはみられなかった。堺利彦・幸徳秋水共訳本以降の日本語訳本では、漢語表記の「無産者」と音訳外来語表記の「プロレタリア」を中心に、「Proletarian」の対訳語として記述されてきているが、現代日本語版訳本の服部文男訳本（1998）からみたところ、音訳外来語表記の「プロレタリア」が日本語訳本における訳語として定着している模様である⁸⁾。近代日本における『共産党宣言』の翻訳は1917年前後を境に前後期に分けられる点から、日本語訳本における「Proletarian」の翻訳は1917年前後を境に「平民」から「無産者」或いは「プロレタリア」への変遷を映り出しているものとみられる。

2. 中国語訳本における「Proletarian」の翻訳

歴代の『共産党宣言』中国語訳本においても「Proletarian」の対訳語の変遷は著しく、民鳴訳「紳士与平民」（1908）から100周年記念版訳本（1949）までの合計8版本の中国語訳本では、「Proletarian」の対訳語として以下の漢語が充てられている。

表2 中国語訳諸訳本における「Proletarian」の対訳語

訳 本	公刊時期	「Proletarian」の対訳語
民鳴訳本	1908年	平民
陳望道訳本	1920年	労働者、労働階級、無産者、無産階級

8) 服部文男訳『共産党宣言』（新日本出版社、1998年）48頁。

華崗訳本	1930年	労働者、労働階級、無産者、無産階級
成做吾・徐水共訳本	1938年	無産者、無産階級
博古訳本	1942年	無産者、無産階級
陳瘦石訳本	1943年	無産者、無産階級
橋冠華訳本	1947年	無産者、無産階級
100周年記念版訳本	1949年	無産者、無産階級

1949年中華人民共和国成立以前における『共産党宣言』の翻訳は五四運動勃興の1919年前後を境に前後期に分けられ⁹⁾、1919年以前に公刊された民鳴訳「紳士与平民」（1908）では「平民」が「Proletarian」の対訳語として使用されているのに対し、1919年直後に公刊された陳望道訳本（1920）では「無産者」或いは「無産階級」が訳語を担っており、同時に「労働者」、「労働階級」等の漢語も「Proletarian」の対訳語として充てられており、華崗訳本（1930）でもそれらの訳語が受け継がれている。華崗訳本以降の中国語訳本では「無産者」或いは「無産階級」の2語に絞られつつあり、現代中国語版訳本の中央編訳局訳本（2005）からみたと、¹⁰⁾「無産者」並びに「無産階級」が中国語訳本における「Proletarian」の対訳語として定着している模様である¹⁰⁾。

以上の内容をまとめると、中国語訳本における「Proletarian」の対訳語は1919年五四運動前後を境に「平民」から「無産者」への変遷がみられ、それに先立って日本語訳本の訳語と同様な傾向が見られることから、日本語による影響の可能性が高いものであると推測できる。

三、「平民」の使用と中日交流

1. 中国語における創出及び訳語への展開

中国語における「平民」の初期用例は西周（紀元前1100年－紀元771年）中期に遡り、当時の代表的な用例として『書経・呂刑』における「蚩尤惟始作乱、延及于平民」が挙げられる¹¹⁾。『書経・呂刑』を最古出典としている「平民」は「一般庶民」を表す漢語として使用されており、当漢語の造語成分である「平」は当時において「一般」という意味を表すものとして使用されている¹²⁾。

西周時代を發祥とする「平民」は、それ以降も「一般庶民」の意味を表す漢語として長々と受け継がれてきており、漢、唐、宋時代における「平民」を代表例として挙げたところ、以下のように使用されている¹³⁾。

9) 王東・陳有進・賈向雲著、解澤春訳「共産党宣言」の32の中訳本－中国におけるマルクス・レーニン著作の出版、普及の手本』（『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究（53）』八朔社、2010年）101-111頁。

10) 中央編訳局編訳『共産党宣言』（中央編訳出版社、2005年）26頁。

11) 『漢語大詞典・第二卷』（漢語大詞典出版社、1980年）991頁、『辞源（修訂本）・第二冊』（商務印書館、1988年）925頁。

12) 『辞源（修訂本）・第二冊』（商務印書館、1988年）925頁。

13) 西周以降の用例に関しては、北京愛如生数字化技術研究中心編『中国基本古籍庫』データベースを以て利用して、調査を行った。

- 漢時代における用例：
平原君以为贤言至于王王用之治国赋国赋大平民富而府库实・・・（『史記』卷第九）
- 唐時代における用例：
孝武帝有事于四夷又徙平民七十万口于新亲中用度广出御府钱人贍不足而冶铸或累万金・・・（『通典』卷八食貨八）
- 宋時代における用例：
腊破六州五十二县杀平民二百余万王师自出至凯旋・・・（『宋九朝編年備要』）

「一般庶民」の意味を表す「平民」は「王族」、「貴族」等の身分階級用語の対立語に値しており、上記の例文にみられる「平民」は「王」、「武帝」等の「抑圧」対象として機能していることが窺えられる。

19世紀になると英華辞典が相次いで編纂され、本研究の調査によれば、早期の英華辞書において、「平民」は英語「Plebeian」の対訳語として記述されていることが判明している。19世紀初頭から半ばにかけて公刊された英華辞書の多くは西洋からの宣教師によって編纂されたものであり、同時期の主な辞書としてモリソン（Robert Morrison）編『華英・英華字典』（1815-23）、ウィリアムズ（Samuel Wells Williams）編『英華韻府歴階』（1844）メドハースト（Walter Henry Medhurst）編『英華字典』（1847-48）、ロブシャイド（W. Lobscheid）編『英華字典』（1866-69）が挙げられ、これらの英華辞書において、「Plebeian」の対訳語は以下のように記述されている。

表3 19世紀初頭～半ば公刊の英華辞書における対訳語

辞書名	著者／編者	項目	記述
華英・英華字典（1815-23）	モリソン（Robert Morrison）	Plebeian	未収録
		Proletarian	未収録
英華韻府歴階（1844）	ウィリアムズ （Samuel Wells Williams）	Plebeian	未収録
		Proletarian	未収録
英華字典（1847-48）	メドハースト （Walter Henry Medhurst）	Plebeian	私、庶人、布衣、百姓、白丁、平常的人
		Proletarian	未収録
英華字典（1866-69）	ロブシャイド（W. Lobscheid）	Plebeian	平民、俗人、布衣、白衣、白丁、庶人
		Proletarian	鄙陋、卑賤

表3からみたところ、「Plebeian」が収録されたのはメドハースト（Walter Henry Medhurst）編『英華字典』（1847-48）が初である。ロブシャイド（W. Lobscheid）編『英華字典』（1866-69）において記述されている「Plebeian」の対訳語のうち、「庶人」、「布衣」、「白丁」をはじめとする漢語はメドハースト（Walter Henry Medhurst）編『英華字典』（1847-48）から受け継がれてきたものであるとみられるものの、「平民」に関してはメドハースト（Walter Henry Medhurst）の『英華字典』には記述されておらず、ロブシャイド（W. Lobscheid）の『英華字典』が初記述であるとみられる。一方、「Proletarian」の対訳語に関しては表3において示されている通り、モリソン（Robert Morrison）からメドハースト（Walter Henry Medhurst）までの英華諸辞書では記述されておらず、初記述とみられるロブシャイド（W. Lobscheid）の『英華字典』では「鄙陋」、「卑賤」が対訳語として充当されており、「平民」が記述

された気配はみられなかった。

以上の考察内容をまとめると、「平民」は「一般庶民」の意味を表す漢語として古代中国語において創出され、西洋から宣教師の手によって「Plebeian」の対訳語へと展開してきたものとみられる。

2. 日本語への輸出及び新義訳語への展開

日本語における「平民」の最古用例は平安時代に遡り、『続日本紀－和銅元年七月乙巳』における「勅日、卿等情存^二公平^一、率^二先百寮^一、朕聞^レ之喜^二慰于懷^一、思由^二卿等如^レ此、百官為^レ本至^二天下平民^一、垂拱開^レ衿、長久乎好」が挙げられ¹⁴⁾、古代中国語における「平民」と同様に「一般庶民」という意味で使用されている。「一般庶民」の意味で使用されている「平民」に関して、『日本語国語大辞典』では前述の『続日本紀－和銅元年七月乙巳』と同時に古代漢籍『書経・呂刑』が出典として挙げられていることから、古代中国語から伝来したものであるとみられる。

古代中国語を由来とする「平民」は日本語において「一般庶民」の意味を表す漢語として長々と受け継がれてきており、室町時代における用例を代表例として挙げたところ、以下の用例がみられた。

- 「広本・永禄二節用」における用例

日本デサエ王ヲ平民ガミルコトナイゾ。況ヤ大唐、コトニ威勢ノヲソロシイ王ワエミヌニ、見タクハ心安ウミヨトアリ。¹⁵⁾

- 「詩学大成抄」における用例

飯田大炊助貞家郎従石川助五郎、為^二長門国三隅庄平民左衛門三郎男^一、去十七日夜被^二殺害^一ノ事。¹⁶⁾

19世紀半ば以降になると、英和辞典が相次いで編纂され、本研究の調査によれば、19世紀の半ばから末頃にかけて公刊された英和辞書において、「平民」は英語「Plebeian」及び「Proletarian」の対訳語として記述されていることが判明している。

表4 19世紀半ば以降公刊の英和辞書における対訳語

辞書名	著者／編者	項目	記述
英和对訳袖珍辞書（1869）	蔵田屋清右衛門	Plebeian	平人
		Proletarian	先立ツ、賤レキ
附音挿図英和字彙（1873）	柴田昌吉	Plebeian	平民（ヘイミン）、庶人（ショジン）
		Proletarian	平民ノ、下賤ナル
明治英和字典（1884）	尺振八訳	Plebeian	平民、庶人、庶民、野民
		Proletarian	賤民、卑人、庶人、庶民、人民、平民

14) 日本国語大辞典編集委員会・小学館国語辞典編集部編『日本国語大辞典（第二版）・第十一巻』（小学館、2001年）1197頁。

15) 室町時代語辞典編輯委員会編『時代別国語大辞典・室町時代編（五）』（三省堂、1985年）9頁。

16) 同上。

英和対訳辞典 (1885)	ノア・ウェブストル (Noah Webster) 原著、早見純一訳述	Plebeian	平民、庶人
		Proletarian	未収録
英和双解辞典 (1885)	ピー・エー・ナットル (P. A. Nuttall) 原著、棚橋一郎訳	Plebeian	平民、庶人
		Proletarian	未収録
和訳字彙ウェブスター氏新刊大辞書 (1888)	イーストレキー (Frank Warrington Eastlake)、棚橋一郎共訳	Plebeian	平民、庶人、野民
		Proletarian	平民ノ、下賤ナル、卑キ、陋劣ナル
附音挿図和訳英字彙 (1888)	島田豊纂訳	Plebeian	平民、庶人、庶民、野民
		Proletarian	賤キ、卑キ、陋劣ナル

表4において示されている通り、早期の英和辞書で「平民」が「Plebeian」の対訳語として記述されたのは柴田昌吉著『附音挿図英和字彙』(1873)が初である。『附音挿図英和字彙』は明治以降に公開された大辞書であり、その後の英和辞典に与えた影響は非常に大きく¹⁷⁾、当辞書を皮切りに、「平民」は「Plebeian」の対訳語として数多くの英和辞書において記述されつつある。又、『附音挿図英和字彙』で記述されている訳語の多くはロブシャイド (W. Lobscheid) 編『英華字典』における訳語から採用されたものであり¹⁸⁾、両辞書における「Plebeian」の対訳語の対照によれば、『附音挿図英和字彙』で記述されている「平民」及び「庶人」は『英華字典』から借用したものであるとみられる¹⁹⁾。

一方、「Proletarian」の対訳語に関しては、表4で示されている通り、早期の英和辞書で「平民」が「Proletarian」の対訳語として収録されたのは柴田昌吉著『附音挿図英和字彙』が初であり、当辞書を皮切りに、「平民」は「Proletarian」の対訳語として数多くの英和辞書類において収録されつつある。先述の通り、『附音挿図英和字彙』における訳語の多くはロブシャイド (W. Lobscheid) 編『英華字典』における訳語から採用されているものの、『英華字典』における「Proletarian」の項目では「平民」が記述されておらず、「鄙陋、卑賤」が対訳語として充てられていることから²⁰⁾、『附音挿図英和字彙』において「平民」は編者自らによって「Proletarian」の対訳語として充てられたものであるとみられる。以上の点から、日本語における「平民」が「Proletarian」の対訳語へ展開した件に関して、英華辞書による影響の可能性は薄いものとみられる。

3. マルクス用語及び日本語訳本の訳語への展開

既述の通り、日本におけるマルクス主義の伝播は19世紀80年代初頭を発端としており、日本語における「平民」はそれに先立って「Proletarian」の対訳語として英和辞書において記述されている。マルクス用語としての初期用例に関しては、『共産党宣言』日本語訳初版本公刊に至るまでのマルクス関連の日本語出版物を調査したところ19世紀90年代末頃に遡り、代表例として福井準造著『近世社会主義』(1899)における用例が挙げられる。

17) 森岡健二『改訂 近代語の成立－語彙編』(明治書院、1991年) 65頁。

18) 森岡健二『改訂 近代語の成立－語彙編』(明治書院、1991年) 68頁。

19) 表3を参照。

20) ロブシャイド (W. Lobscheid) 編『English and Chinese dictionary = 英華字典 : with the Punti and Mandarin pronunciation』(Daily Press、1866-1869) 1383頁。

- 福井準造著『近世社会主義』（1899）における用例：

同盟の目的は平民（即ち労働者）の束縛者たる市民（資本主）を平夷し、階級の争闘を基礎とせる旧社会を全滅し、階級制と財産私有制とを撤去して以て一新社会を組織するにあり…。²¹⁾

当用例は福井準造著『近世社会主義』第二編「第二期の社会主義－徳意志的社会主義」を出自としたものであり、第二編ではマルクスの生い立ち及び学説を中心に紹介されており、学説に関しては『共産党宣言』、『資本論』をはじめとするマルクス、エンゲルスの著作物の主な内容についての紹介及び翻訳引用が行われている。当例文における「平民」には「労働者」が割注の形で付加されており、「資本主」が割注の形で付加されている「市民」と対応している点から、生産資料を有さず賃金労働を以て生活を維持する「無産者」の意味で使用されているものとみられる。

20世紀に入って間もなく『共産党宣言』日本語訳初版本が誕生し、1906年創刊の『社会主義研究』第一号にて掲載された堺利彦・幸徳秋水共訳本において、「平民」は訳語として以下のように受け継がれてきており、当漢語は「共産党宣言」日本語訳本における訳語として機能してきた事実が窺えられる。

- 堺利彦・幸徳秋水共訳本（1906）における用例

Ex：紳士与平民²²⁾

Ex：然れども此階級的争闘が極めて単純なるに至れるは、現時代即ち紳士閥の時代有する特徴なりとす、然り今の社会は全体に於て、刻一刻に割烈して、兩個の相敵視する大陣営、直接に相対立する二大階級を現じつつあるなり、何の階級ぞや、曰く紳士、曰く平民。²³⁾

4. 中国語におけるマルクス用語としての逆輸入

中国語における「平民」は西周時代を發祥して以来、「一般庶民」の意味を表す漢語として長々と受け継がれてきており、以下の例文から見られるとおり、19世紀半ば以降は「官」や「匪徒」等の対立語として使用されており、『共産党宣言』中国語訳本における訳語としての用法とは異なるものの、「抑圧」される対象として機能している点で共通している²⁴⁾。

- 例文1

诚恐无知之徒仍敢贪贱收买攙使并有等匪徒恃强掣用欺压平民

（「租界會審分府陳憲嚴禁私鑄小錢告示」『申報』92号（1872年8月15日））

21) 原文における「労働者」及び「資本主」は割注の形で表記されているが、本研究では丸括弧の形で引用している。福井準造『近世社会主義』（有斐閣、1899年）186頁。

22) 当用例は当訳文且つ『共産党宣言』第一章のタイトルに値する。堺利彦・幸徳秋水共訳「共産党宣言」『社会主義研究』第1号（社会主義研究発行所、1906年）6頁。

23) 堺利彦・幸徳秋水共訳「共産党宣言」『社会主義研究』第1号（社会主義研究発行所、1906年）7頁。

24) 19世紀半ば以降の「平民」の用例に関しては、北京愛如生数字化技術研究中心編『申報』（1872-1949）データベースを以て利用して、調査を行った。

• 例文2

蓋苟无控人则官不能羈押平民也且一为该罪所提审不可复为该罪重审也

(「査治福槍斃挑夫案以証懇不齊釋放」『申報』425号(1873年9月15日))

既述の通り、中国における『共産党宣言』の翻訳は19世紀90年代末を発端としており、20世紀以降は日本を媒介に翻訳が行われてきた。陳望道訳本(1920)以前のマルクス関連の主な中国語出版物を調査したところ、「平民」の新たな用法が20世紀初頭公刊の出版物にみられ、具体例として趙必振訳『近世社会主義』(1903)における用例が挙げられる。

• 趙必振訳『近世社会主義』(1903)における用例：

千八百四十七年、“正义同盟”于伦敦、变更其组织、改名为“共产的同盟”、其表其宣言书、以开陈同盟之意见、先述其目的曰“同盟之目的、以平民(即劳动者)之束缚者、与市民(即资本主)而平夷、全灭阶级之争斗、与旧社会之基础、撤去阶级制与私有财产制、以组织一新社会…。²⁵⁾

趙必振訳『近世社会主義』(1903)は前述の福井準造著『近世社会主義』(1899)の中国語訳本に値しており、中国で初めて社会主義理論について体系的に紹介された文献であり、同時期におけるマルクス主義の伝播を大いに促してきている²⁶⁾。当例文は前述の福井準造著原本における例文の訳文に値しており、「平民」は原本から直接借用されていると同時に、「労働者」が割注の形で付加されており、「資本主」が割注の形で付加されている「市民」と対応している点から、『共産党宣言』中国語訳本における「無産者」の用法に値しているとみられる。

趙必振訳『近世社会主義』(1903)が公刊されて間もなく、『共産党宣言』第一章の訳文に値する民鳴訳「紳士与平民」(1908)が公刊され、「平民」は訳語として以下の様に受け継がれてきている。

• 民鳴訳「紳士与平民」(1908)における用例：

Ex: 紳士与平民²⁷⁾

Ex: 故今日社会全体之离析、日甚一日、双方对峙之形、以呈巨大之二阶级、此阶级惟何、一曰紳士、二曰平民。²⁸⁾

民鳴訳「紳士与平民」(1908)は堺利彦・幸徳秋水共訳本(1906)を原本として翻訳されたものであり、

25) 福井準造の原本と同様に、趙必振の訳本における「労働者」及び「資本主」も割注の形で表記されているが、本研究では丸括弧の形で引用している。趙必振訳『近世社会主義』(上海広智書局、1903年)126頁。

26) 胡為雄「赴日留学生与“日本馬克思主義”在中国的早期伝播」(『馬克思主義与現実』第3期、2015年)24-31頁。鮮明「『近世社会主義』对馬克思主義学説訳介的貢献」(『社会科学論壇』第4期、2015年)220-225頁。

27) 当用例は当訳文且つ『共産党宣言』第一章のタイトルに値する。民鳴訳「紳士与平民」(『天義報』第15巻、1908年)512頁。

28) 民鳴訳「紳士与平民」(『天義報』第15巻、1908年)513頁。

当訳文における「平民」は原本から直接借用されたものとみられる²⁹⁾。従って、近代中国語における「平民」は日本語の影響により、『共産党宣言』中国語訳本における「Proletarian」の初代訳語として機能していた事実が確認できる。

四. 中日交流と「平民」から「無産者」への変遷

1. 日本語における「無産者」の創出

マルクス主義を含めた社会主義が日本で紹介され始めた19世紀80年代から『共産党宣言』日本語訳初版本が公刊された1906年前後に至るまで約20年にわたっており、同時期の日本語における「無産者」の初期用例に関しては、朝日新聞記事データベース「聞蔵II ビジュアル」における「朝日新聞縮印版1879-1999」を利用して調査を行った³⁰⁾。当データベースからみたところ、19世紀80年代に用例が確認され、当時における具体例として以下のものが挙げられる。

• 用例 1

現今各府県庁にて無産の者と詳細に取り調べ、本年七月三十一日限りふ内務省へ差し出され…
(「士族授産金下渡方の事」『大阪朝日新聞（朝刊）』1882年1月28日)

• 用例 2

本籍と寄留籍の無産者を区別して上申されると云ひ、また内務省にでも此割宛方に付いていろいろ議論がありしすえ、府にも有れ県にもあれ、本籍の無産士族と標準として下け渡し…
(「雑報」『大阪朝日新聞（朝刊）』1882年2月1日)

• 用例 3

郡山地方は地味桑樹を培養するに適し地価も亦低廉なる養蚕を描き他に良法を以て先ず現在無業無産の者して此業に就かしめ、尚徐々に広め永遠に隆盛を謀る目的として着手する事に豫定し…
(「柳沢家の美拳」『大阪朝日新聞（朝刊）』1886年10月16日)

上記の文献における「無産者」は文字通りの「資産を有さない人物」の意味で使用されており、例文1、2における「無産者」は明治維新直後の版籍奉還により生じた士族の一部を対象としており、当時では廢刀令が実行されて間もない時期に値しており、それに伴い特権が奪われ、資産を失った士族を指している。従って、当時の日本語における「無産者」はマルクス関連の出版物における「無産者」とはニュアンスが大いに異なっている。

「朝日新聞縮印版1879-1999」データベースにおける「無産者」の用例を縦覧したところ、20世紀20年

29) 原本の堺利彦・幸徳秋水共訳本（1906）における用例は本研究第三章第3節「マルクス用語及び日本語訳本の訳語への展開」を参照。

30) 朝日新聞記事データベース「聞蔵II ビジュアル」は1879年（明治12年）の創刊号から現在までの135年を超える紙面から約1500万件の記事・広告がデータ化されており、当データベースにおける縮印版は「明治・大正」、「昭和（戦前）」、「昭和（戦後）」、「平成（～11年）」の4篇に分けられている。

代に至るまで用例数は限られており、上記の例文1-3を含めた合計8例しか確認できず、文字通りの「資産を有さない人物」の意味を中心として使用されている。しかし、20世紀10年代では新たな用法が確認でき、代表例として河上肇著「英国から（2）小村の百姓家（下）」における用例が挙げられる。

・「英国から（2）小村の百姓家（下）」における用例

かう云った調子に金持ちは土地を占領して、「私有権」の塀により、貧民の入り来るを拒絶して居るのである。彼等の海外に在つては加奈陀を占領し、濠州を占領し、勿体ないほど土地を濫用しつつあるが、今英本国の田舎に来てみると、有産者といふ階級が無産者といふ階級に向つて又た同じ仕打ちをして居るのである。

（「英国から（2）小村の百姓家（下）」『東京朝日新聞（朝刊）』1915年1月20日）

当文章の著者である河上肇は近代日本における著名社会主義学者であり、マルクス主義経済学を中心とした研究を行ってきており、既述の通り、河上は歴代の『共産党宣言』日本語訳本の訳者でもあり、「マルクスの社会主義の理論的体系」（1919）において『共産党宣言』の部分的翻訳引用が行われている。上記の「英国から（2）小村の百姓家（下）」はマルクス主義関連の著作物ではないものの、当文章における「無産者」は身分階級用語並びに「有産者」との対立用語として機能しており、支配階級「有産者」による抑圧を受けているというニュアンスが窺えられ、『共産党宣言』日本語訳本における「無産者」と用法が類似しているものであるとみられる。

2. マルクス用語並びに日本語訳本の訳語への展開

『共産党宣言』日本語訳本における「Proletarian」の翻訳史からみたところ、「無産者」が訳語として充当されたのはロシアの十月革命直後に公刊された河上肇部分訳本（1919）が初であり、以下の用例が挙げられる。

・河上肇部分訳本（1919）における用例：

乍併吾々の時代、即ち有産者本位の時代は、その階級の対立を簡単化せることを以て特徴とする。全社会は愈々益々、二個の敵視せる二大陣営に、互に間近く対峙せる二大階級に、即ち有産者と無産者とに、分裂しつつある。³¹⁾

先述の如き、「有産者」の「抑圧」対象に値する「無産者」の用例は河上肇の著作物において既にみられる点から、当漢語は河上肇の手により日本語訳本の訳語として受け継がれてきたものと窺えられる。本研究第二章において既述の通り、1917年以降の日本語訳本では「Proletarian」の対訳語として音訳外来語表記の「プロレタリア」或いは漢語表記の「無産者」が充当されており、全般的には音訳外来語表記の「プロレタリア」が訳語として普及している傾向であるが、長谷川早太の全訳本（1930）では漢語表

31) 河上肇「マルクスの社会主義の理論的体系（二）」『社会問題研究』第2冊（弘文堂書房、1919年）31頁。

記の「無産者」が訳語として受け継がれている。

- 長谷川早太訳本（1930）における用例：

Ex：有産者と無産者³²⁾

Ex：今や全社会は、漸次に二つの大なる敵対的陣営、相互に直接対立する二つの大なる階級に分裂しつつある。有産者階級と無産者階級とに。³³⁾

以上の内容からみて、1917年前後を境に、「無産者」は「平民」に替り、日本語訳本における「Proletarian」の二代目対訳語として機能してきた事実は否めないものであるとみられる。

3. 中国語におけるマルクス用語としての伝来

『共産党宣言』が中国で翻訳され始めた19世紀90年代末から『共産党宣言』中国語訳初版本が公刊された1920年前後に至るまで約20年にわたっており、同時期の中国語における「無産者」の初期用例に関しては『申報』データベースを利用して調査を行った³⁴⁾。当データベースからみたところ、1919年以前の中国語では「無産者」という三字漢語の用例は確認できず、以下の用例が中国語における初期用例とみられる。

- 「法庭清理積案之困難」における用例：

緣民事訴訟除上訴救濟外于判決確定后不能變更原判折減繳款且原告一經聲告即照原判執行有產者查封其無產者強制執行拍賣抵債

（「法庭清理積案之困難」『申報』第16560号（1919年3月29日））

上記の「法庭清理積案之困難」はマルクス主義関連の著作物ではないものの、当例文における「無産者」は「有産者」の対立用語として機能しており、支配階級「有産者」による「搾取」を受けているというニュアンスが窺えられ、『共産党宣言』中国語訳本における「無産者」と用法が類似している。

「無産者」の初期用例が見られた当時は五四運動を契機に『共産党宣言』、『資本論』をはじめとするマルクスの著作物の翻訳が再び盛んに行われ始めた時期に値しており、同時期では李大釗、淵泉、陳独秀をはじめとする思想家により、中国におけるマルクス主義の伝播が大いに促されている。マルクス用語としての初期用例に関しては、中国語訳本を含めた歴代のマルクス関連の中国語出版物を調査したところ、1919年五四運動直後に遡り、具体例として李大釗著「我的馬克思主義觀」（1919）における用例が挙げられる。

32) 当用例は長谷川訳本における第一章のタイトル名に値する。長谷川早太訳『共産党宣言』（労農書房、1930年）17頁。

33) 長谷川早太訳『共産党宣言』（労農書房、1930年）17頁。

34) 『申報』デジタルコーパスは関西大学、北京愛如生デジタル技術研究センターにより共同開発されたものであり、1872年から1949年に至るまでの記事がデータ化されている。

- 李大釗著「我的馬克思主義觀」(1919)における用例：

Ex: 可是到了我们的时代、就是有产者本位的时代、却把阶级的对立简单了。全社会越来越分裂为互相敌视的两大阵营、为相逼对峙的两大阶级、就是有产者与无产者。³⁵⁾

李大釗著「我的馬克思主義觀」(1919)は五四運動以降の中国においてマルクス主義理論について体系的に紹介された最初の文献であり、当文章における一部の内容は河上肇著「マルクスの社会主義の理論的体系」(1919)を底本として訳されたものであり、『共産党宣言』第一章における内容の部分訳文が含まれている³⁶⁾。上記の例文がその一例であり、当例文では河上肇著「マルクスの社会主義の理論的体系」(1919)を媒介に、『共産党宣言』第1章における一段落が翻訳引用されており、当例文で使用されている「無産者」は河上肇の原本から直接借用されたものである³⁷⁾。従って、中国語における「無産者」は日本語による影響を受けてマルクス用語として使用されてきたものであるとみられる。

五四運動が勃興されて間もなく、『共産党宣言』中国語訳初版本である陳望道訳本が公刊され、「無産者」は陳望道訳本(1920)において「Proletarian」の対訳語として以下の様に受け継がれてきている。

- 陳望道訳本(1920)における用例：

有产者及无产者(有产者就是有财产的人、资本家、财主、原文 Bourgeois 无产者就是没有财产的劳动家 原文 Proletarians)³⁸⁾

上記の用例は、陳望道訳本(1919)における第一章のタイトル部分に値しており、当例文では「有産者」及び「無産者」に対する解釈文がタイトル名「有産者及無産者」に後接されており、「無産者」に関しては「財産を有さない労働者」と解釈されており、対訳語として「Proletarians」と記述されている。陳望道訳本は民鳴訳「紳士与平民」と同様に堺利彦・幸徳秋水共訳本(1906)を底本として翻訳されてきたものであるものの、民鳴訳本では「Proletarian」の対訳語として「平民」が原本から直接借用されているのに対し、陳望道訳本では「無産者」に改訳されている点から、中国語訳本における「Proletarian」の対訳語の変遷が反映される。

おわりに

近代中国の『共産党宣言』翻訳プロセスにおいて、日本語出版物は重要な媒介物の役割を担ってきて

35) 李大釗「我的馬克思主義觀(上)」(1919)『新青年(簡体典蔵全本)・第六卷』(寧夏人民出版社、2011年)462頁。

36) 方紅・王克非「『共産党宣言』在中国的早期翻譯与傳播」(『外国語文(双月刊)』第27卷第6期、2011年)107-116頁。

37) 原文の河上肇著「マルクスの社会主義の理論的体系」(1919)における用例に関しては、第四章第2節「マルクス用語並びに日本語訳本の訳語への展開」を参照。

38) 当用例は、陳望道訳『共産党宣言』(1920)における第一章のタイトルに値する。陳望道訳『共産党宣言』(社会主義研究社、1920年)2頁。

おり、20世紀初頭から1919年五四運動前後にかけて、中国は日本語出版物を主な媒介物として『共産党宣言』の翻訳を行ってきており、同時に「Proletarian」等のマルクス主義概念を表す訳語を日本語から導入してきた。歴代の『共産党宣言』日本語訳本における「Proletarian」の対訳語は「平民」から「無産者」、「プロレタリア」へと移り変わりが著しく、中国語訳本における「Proletarian」の対訳語も「平民」から「無産者」へと同様な移り変わりがみられた。「平民」に関しては古代中国語において「一般庶民」の意味を表す漢語として創出された後に日本語に伝わり、近代日本語において「無産者」の意味に値するマルクス用語へと展開した後に中国語に還流し、『共産党宣言』中国語訳本における初代訳語として受け継がれてきたものであるとみられる。一方、「無産者」に関しては近代日本語において創出された後にマルクス用語並びに日本語訳本の訳語へと展開し、マルクス用語として中国語に伝わり、中国語訳本における訳語として受け継がれてきたものであるとみられる。以上の考察内容により、歴代の『共産党宣言』中国語訳本における「Proletarian」の諸対訳語「平民」及び「無産者」はいずれも近代日本語を由来としており、中国語訳本における訳語の変遷は日本語による影響が非常に大きいものであるとみられる。

